厚生病院だより

ほほえみ

広報誌
第71号
2020 1. 1

Topics

- 院長　新年の挨拶2020年
- 副院長　新年の挨拶・就任挨拶
- ハッピー健康相談室 3月4日（水）
- 診療科の紹介　小児科
- 第24回市民公開講演

「高尾山からの富士山」撮影者：加藤 広行

基本理念　信頼され、心が通う地域医療

桐生厚生総合病院
（編集　院外広報編集委員会）
〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
TEL:0277-44-7171㈹ FAX:0277-44-7170
URL: https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/

新年の挨拶

院　長

くわ　しま　　まこと
桑島　信

皆様、明けましておめでとうございます。

令和の年号での初めての正月を迎えました。

昨年は日本人のノーベル化学賞受賞、ラグビーW杯での活躍、女子ゴルフなど、明るい話題もありましたが、台風の被害をはじめ大きな災害が続きました。改めてこの国の安全対策・生活基盤の整備がこのままで良いのか、不安を覚えました。

医療・介護もまた生活を支える重要な基盤ですが、人口減少、高齢化が進むなかで、これからの10～15年の変化に対応するためにどのように再構築していくのか、ここ数年の大きな課題です。

昨年に厚生労働省が公表した「再編・統合の再検討が必要な公立公的医療機関リスト」には驚かれた方も多いかとおもいます。また、2025年に向けた地域医療構想の検討の場では、主に急性期病床が「過剰」として、特に公立・公的医療機関の急性期病床数削減への圧力が強くかかっている状況です。使用された指標の適切さに疑問はありますが、人口動態の予測からは再検討が必要なことは間違いありません。

一方、医師の働き方改革、新しい専門医制度、なども加わり、地方の、特に急性期医療を提供する病院で働く医師を確保できるのか、先行きは大変不透明です。

地域の医療をどう維持していくか、当院はどう貢献できるのか？

幸い当地域には、当院以外にもそれぞれ特色のある急性期医療を提供する複数の病院が存在します。病院どうしの連携をさらに密接なものとし、協力して地域医療にあたる必要性は各病院の共通認識と理解していますので、一歩進める取り組みに着手したところです。

また院内には将来構想委員会を設置し、10年後にこの病院がどうあるべきかを検討しつつ目先の課題に対処していきます。

来年度に向けて、まず、ベッド数の調整、外来機能の強化を行うべく準備中です。

地域の人口は減少傾向が続き、患者さんの平均在院日数も大幅に減少したために病棟の空きが目立つようになっていることから、徐々に過剰な病床数を減らしていく必要があります。

また、治療はなるべく入院から在宅に移行する流れの中で、手狭になっている外来化学療法室と注射室を拡張し、利用する患者さんにより快適に過ごしていただける環境を整えます。

引き続き、皆様のご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

副　院　長

たか　はし　　みつ　ひろ
髙橋　満弘

あけましておめでとうございます。

令和の時代がスタートしました。医療もさらに新しい時代へと進むはずで、当院もこれからの時代に対応するように変革が必要です。これまでも多くの職員が病院をよりよくすべく取り組んできたわけですが、その努力を上手にまとめられず、その速度も充分とはいえませんでした。医師が充足していないことも大きな要因の一つではありますが、現状でも可能な改革を確実に進めていく必要があります。

また、昨年の災害状況をみると通常の医療のほかにも災害時の対応にも配慮が必要です。当院は災害拠点病院として認定を受け、災害訓練も毎年実施しています。しかし、昨年の台風19号の時には訓練してきたことが充分活かせたとはいえませんでした。幸いこの地域は大きな被害を受けずにすみましたが、今後の課題として残りました。

病院改革も同様と思います。考えた対応と実際の対応の乖離をできるだけ小さく、なおかつスピーディに実施していくことが求められます。

多くの課題がありますが、この地域の中核病院としての機能を維持し、さらにこの地域の要望に沿った運営を心がけていきたいと考えています。みなさまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

本年がみなさまにとって幸多い年でありますように。

副院長就任挨拶

明けましておめでとうございます。

このたび、平成31年4月1日付けをもちまして、桐生厚生総合病院の副院長を拝命いたしました。遅ればせながら着任するにあたり、病院長の桑島信先生をはじめとする院内の皆様ならびに桐生市医師会の先生方に、絶大なるご支援とご指導を賜り衷心より御礼申し上げます。

私は、消化器外科が専門であり、主に食道、胃、大腸などの悪性疾患や鼠径（そけい）ヘルニア、胆石症などの手術療法を担当しております。現在は、それらの手術の半数程度を腹腔鏡という細い棒状のカメラや手術器具を用いて行っており、お腹の傷は約1～2cm程度の切開創が4つぐらいで実施いたします。そして群馬大学との連携を密接に図り、先進的な医療の提供を積極的に目指しております。何かお困りの際には、遠慮せずにご相談ください。

副院長・外科

かとう　ひろゆき
加藤　広行

当院は、地域中核病院であり、とくに地域がん診療連携拠点病院に指定されており、専門的ながん医療を提供し、地域の連携協力体制や、患者の相談支援や情報提供などの役割を担っております。そのため当院では昨年9月から県内で初めてのセカンドオピニオン外来を無料で提供しております。セカンドオピニオン外来は保険適応外のため、原則として1人30分で新たな検査や診療は行わないことにしています。是非とも地域の皆様にご活用いただき、満足のいく医療に貢献したいと存じます。

もとより浅学菲才な身でありますが、令和2年を迎えるにあたり、桐生地域ならびに外科学の益々の発展のために、地域完結型の外科医療の提供を目指して粉骨砕身の覚悟で臨みたいと決意を新たにした次第であります。

今年も何卒宜しくお願い申し上げます。

副院長・皮膚科

おかだ　かつゆき
岡田　克之

新年、明けましておめでとうございます。今年度から副院長および地域医療連携室長を拝命し、いま発するこのお祝いのことばの重さを、つくづく実感しております。多くの皆さまにお支えいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

「信頼され、心が通う地域医療」その一語一語を、しっかり噛みしめて、新たなる年を過ごしていく所存です。病院をいかに良くするか、そして地域をいかに良くするか。院内院外のニーズを把握し、分析し、この病院理念に示されているビジョンの達成に向かいます。

地域におけるこの病院のあり方を考え、周辺の医療機関、介護施設等といかに連携していくか。この超高齢社会の中で、何が求められていくか。マンパワーや財政状況の厳しい中で、地域に貢献できる当院の持ち味を発揮していきたいと思います。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」昨年、ノーベル化学賞を受賞された吉野彰博士の座右の銘です。あれほどの功績をあげられた方の言葉ゆえ、心に響きます。さまざまな課題に、医療人として真摯に取り組んでいかなくてはならないと実感しました。

昨今のAIの進歩、ICTの普及は著しいですが、人と人とのコミュニケーションが何より大事ではないでしょうか。医療ホスピタリティの推進にも、多面的に取り組んでいます。ほほえみのあふれる地域をめざして、頑張ってまいります。皆さま、良い年にいたしましょう。

第23回
ハッピー健康相談室
参加費無料

テーマ　どうしよう？急なできごと

日　時　2020年3月4日(水) 14:00～16:00

① 「歯がくちがこんなことに…どうしよう？」
講師：歯科口腔外科診療部長　今井 正之

② 「ケガ！ヤケド！どうしよう？」
講師：副院長・皮膚科診療部長　岡田 克之

③ 「急なことには、こんなケアを！」
講師：救急看護認定看護師　奥村 佳恵

■ 場　所：桐生厚生総合病院　情報コーナー（正面玄関脇）
■ 主　催：桐生厚生総合病院　医療ホスピタリティ推進委員会
■ 駐車場：無料（当院の駐車場をご利用ください）
■ 問い合わせ：事務局 TEL.0277-44-7130

診療科の紹介

小　児　科

Pediatrics

小児科診療部長　大木（おおき）　康史（やすし）

病院の小児科をじょうずに
ご利用いただくために！

　子育てをしているとお子さんの健康について色々な心配がおありと思います。

　夜の急病、カゼをひくとゼイゼイする（ぜんそく？）、便秘がち（自然に治るの？）、ひきつけた（けいれん？）、背が低い（成長ホルモンが足りない？）、太り過ぎ（肥満症？）、食べたらポツポツが出た（食べ物のアレルギー？）、なかなか歩かない（運動発達の遅れ？）、ことばが出てこない（知的発達の遅れ？）、落ち着きがない（多動？）、他の子と遊べない（発達障害？）、よく頭を痛がる（脳腫瘍？）、学校に行かない（ひきこもり？）、読み書きが苦手（学習障害？）、などなど。

　このような子どもの心配については、まずは小児科にご相談いただくのがよいと思います。小児科には開業の先生方と当院のような病院小児科があります。どのように使い分けていただくのが良いでしょうか？

　病院小児科の強みは、**画像診断（エコー、CT、MRIなど）、生理検査（脳波、心電図など）、発達検査、アレルギー検査、臨床心理士面談、他の科の診察など、様々な検査や治療を受けられること**です。また、多くの小児科医が勤務していてそれぞれに専門分野を持っていますので、**色々な病気の専門的な診療が受けられる**のも強みです。当院小児科では、神経、血液、循環器、発達、喘息・アレルギー、内分泌・代謝、腎臓、遺伝、予防接種などの専門外来があり、入院と合わせて専門的な診療を行っています。

　専門的な診療を行うためには、まず、生まれてからの発育、発達、食事、排泄（おしっこ、うんちのこと）、集団保育や学校、ご家族など、細かく話をお聞きします。そのうえでお子さんの負担ができるだけ少ない内容で必要な検査を行い、治療の方針を立てます。このため、特に初めての場合は診療時間も長くなりがちです。そこで、まずはかかりつけ医を受診していただき、より細かな検査や治療が必要な場合にご紹介いただき受診されることをお勧めしています。

　地域の子ども達の健康を守るために地域の先生方と協力して努力いたします。子どもの困りごとはぜひ小児科にご相談ください。

桐生厚生総合病院

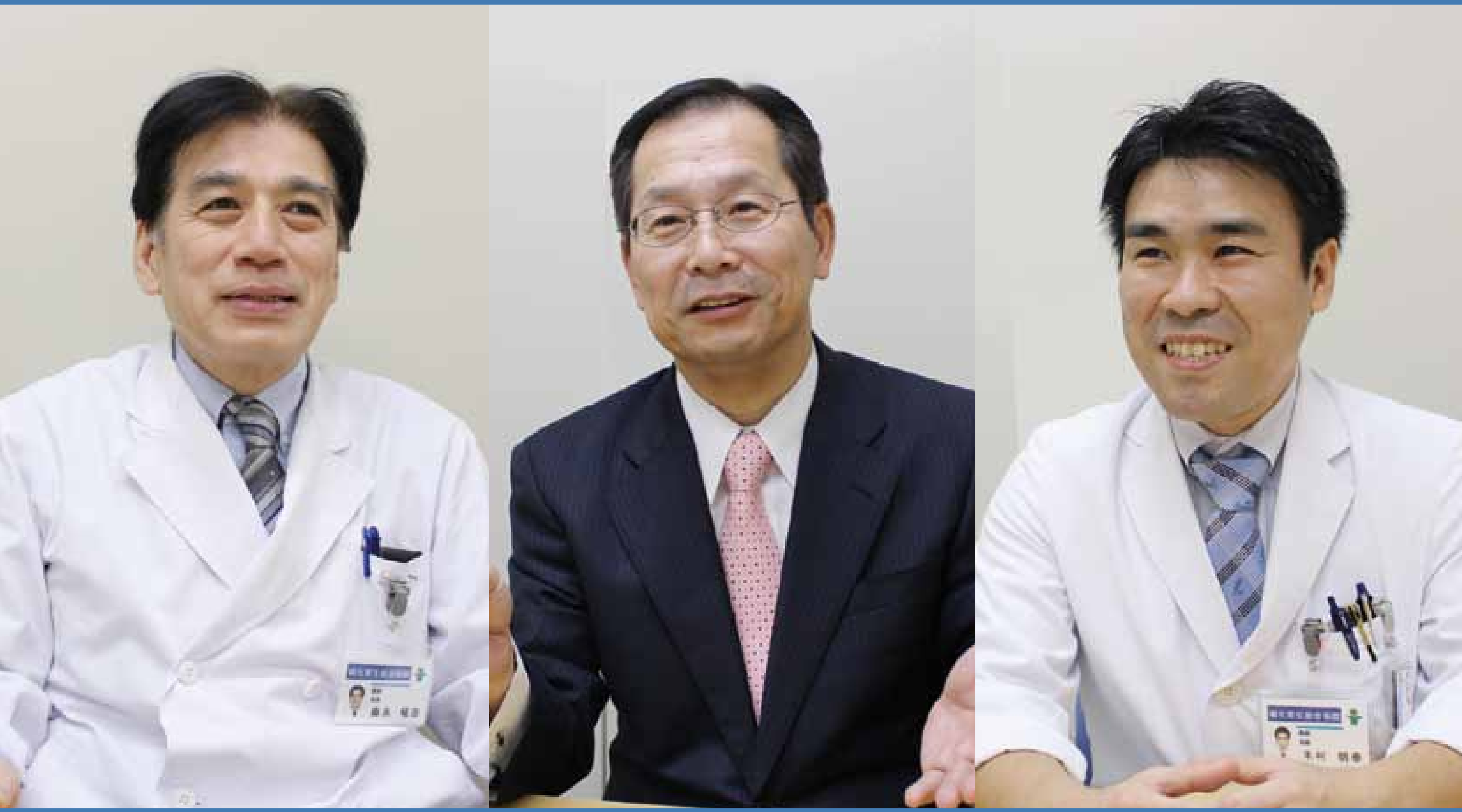
市民公開講演

第24回

参加費無料・申込不要

学ぶなら、今でしょ！

胃がん・大腸がんの治療



日時

2020年

2月29日（土）

14:00～16:00

開場 13:30

場所

桐生市市民文化会館

スカイホール

駐車場は、桐生厚生総合病院駐車場または
桐生市市民文化会館立体駐車場をご利用ください

プログラム

司 会　髙橋 満弘（副院長兼放射線科部長）

講演1「どうして がんになるの！」

加藤 広行（副院長兼外科部長）

講演2「胃がん診療の最先端」

木村 明春（外科部長）

講演3「大腸がん診療の最先端」

森永 暢浩（外科部長）

多くの皆さまのご来場をお待ちしております

主 催　桐生厚生総合病院（令和元年度がん診療連携拠点病院機能強化事業）

後 援　桐生市医師会/桐生市薬剤師会

お問い合わせ先　TEL 0277-44-7150

【お知らせ】
がん患者さん、ご家族のため、
アピアランスケア（外見ケア）の展示コーナーもございます。

（※外来診療担当医表はホームページ内で公開していますので省略いたしました。）